

JICAガーナ 事務所ニュース

・所長のひとこと

目次

所長のひとこと

1 最近の動き

- ・シエラレオネ電力分野への挑戦
- ・隊員総会インタビュー

2 ボランティア便り

- ・ガーナ旅行記 娘の任地を訪ねて

8月は多くの調査団に訪問頂き着実に事業を進めることができました。関係者の方々のご協力に感謝申し上げます。夏休みを利用した大学・研究機関などからの来訪者の方々も日本と比べてはるかに過ごし易い気候で驚いたようです。雨季の終わり頃のこの時期は気温も下がりガーナのベストシーズンですね。しばらく続いてくれることを期待します。

最近驚いたのはアッパーウエスト州のワに定期便が就航したことです。週に2便(金・日)タマレ経由ですがとうとうこの日が来ました。アクラ〜ワ間の道路が全線舗装されたのは最近のことですが、モバイルモデムでインターネットができるようになったりと、どんどん便利になってきています。3-4年前は電話もつながりにくく、未舗装のため移動に苦勞していた頃に比べると大きな発展です。人の動きが活発になっているということはいろいろなビジネスも進んでいるのでしょう。今年末の石油の商業生産を控えて民間企業からガーナへの熱い視線がますます強くなっています。ガーナ投資促進センターによると今年の上半期で7.6億ドル相当の海外投資があり前年同期比で約7倍とのこと。資源・エネルギーだけでなく通信、食品などの分野でも注目されているようです。投資に伴い雇用も拡大することが期待されます。

朝の冷え込みでかぜをひきそうになりました。日本の猛暑より過ごしやすいガーナですが要注意ですね。9月は健康管理強化月間です。気を引き締めていきましょう。

・最近の動き

シエラレオネ電力分野への挑戦

—電力供給施設維持管理のための能力向上プロジェクトパイプライン専門家へのインタビュー

■ 松村昇さん

長崎県出身。ケニア・ジョモケニヤッタ農工大学プロジェクト機械工学専門家、ナイロビ市廃棄物処理個別専門家、カンボジア・ソロモン諸島での無償資金協力関連で17年以上、シエラレオネでは無償資金協力「フリータウン電力供給システム緊急改善計画」で2年間JICA業務に関わる。また、日本の重機メーカーで船舶ディーゼルエンジン、火力発電等の開発研究、設計、メンテナンスに長年従事。

Kingtom発電所も2年前は、所長も現場作業員も無気力で汚れ放題でした。日本の無償協力のディーゼル発電機二基の据付けは、納期も厳しく工事も難しかったのですが、日本の協力メーカーさんの頑張りできちんと完成することができました。日本人の頑張り Kingtom発電所のスタッフへのOJTで、現場作業員、発電所スタッフの意識も最近はずっかり変わってきました。一緒にやっていると情が移り嬉しいものです。



Kingtom 発電所での OJT 指導 (松村さん)

今回 8 月の詳細計画策定調査では電力庁 (NPA) の電力設備維持管理人育成の技術協力の青写真ができました。まだスタートしたばかりのプログラムですが、2 年前の Kingtom 発電所の姿を知っているので今回成果が出たことは本当に嬉しいです。改善意欲に富む NPA 若手、中堅職員を支え育成し、いつかシエラレオネで勤勉の象徴として NPA を見習いなさいと言われるようになったら本当に嬉しいです。

■ 仁尾正さん

兵庫県出身。今回のシエラレオネ業務から JICA 業務に関わる。日本の電機メーカーで国内電力会社の送配電関係機器のシステム設計、修理に長年従事。沖縄電力の仕事、海外ではインドネシア、ナイジェリアでの業務経験あり。

「NPA 技術者には、日本や中国、欧米で研修し、有望でしっかりとした中堅技術者がいます。送配電、変電施設等を自国予算で修繕・更新をしていたり、がんばっているところもあります。エネルギー水資源省や NPA ともに中身・体制としてまだまだ整っていないところもありますが、現在は私が日本で取り組んできたことでシエラレオネに伝えられる経験・技術を、現場の NPA 中堅・若手職員に伝えているところです。」

(シエラレオネフィールドオフィス 吉川)



電力庁 (NPA) 技術ワークショップにて (仁尾さん)

後町陽子さん (エイズ対策)

任地: アコンボ 配属先省庁: 保健省 出身: 東京都

Q1 隊員の前は何をされてきましたか？

大学生でした。大学時代に休学して NGO で活動していたのがきっかけで、卒業後に青年海外協力隊へ応募しました。よく協力隊というと、特別な専門性を持っていないと受け入れられないと思われるようですが、何か特別な資格が必要なわけではなく、日本で生活していて当たり前のことが役に立つこともあります。たとえば、現地で手計算で経理をしている人にエクセルの機能を教えるだけでも現地の人に喜ばれることもあります。高い専門性や語学力だけが、途上国の人に役に立つだけではありません。もちろん、専門性・語学力はあることに越したことはないですが、それ以外にもできることがあるということを知ってもらいたいですね。

Q2 隊員の活動ではエイズ対策をされていたとのことですが、エイズという非常にデリケートな問題を啓発していく際には、何か気をつけていたことはありますか？

エイズ対策には、予防だけでなく検査や陽性者に対するケアなどいろいろな側面があります。エイズの恐ろしさや発症後の重大性を引用して予防のみに重点を置きすぎると、「陽性者＝差別されるべきもの」との印象を被啓発者に与えることとなります。陽性者にも協力をいただきながら、陽性者の話も積極的に発信していく啓発活動も重要であると考えます。

8月19-20日

隊員総会インタビュー



任期を終え、帰国した後町さん



19日隊員総会集合写真

Q3 日本から遠く離れたガーナでの活動ということで、大変なこともあったと思うのですが、どのようなことがありましたか？

基本的には、私は現地の方にとって「外国人」であることに変わりはないので、現地の方が現地の状況について精通していることは意識しています。したがって彼らの助けを借りながら彼らの意見を尊重するようにもしていました。しかし常に現地の方の声を聞いていただけるわけではありません。私は、エイズのカounselingにおいてはプライバシーを尊重してCounselingの「質」を高めるべきだと思いましたが、検査の「量」を重視する人と対立したり、またそもそもクライアント自身からもプライバシーを気にしないと言われることもあったりで、自分でも何が彼らにとって一番よいのか悩む時期もありました。しかしある郡保健局の方は、私の意見にも理解を示してくれたので、その方を通して自分の意見を言うてもらったこともありました。

Q4 今後の進路を教えてください。

まだ分野は確定していませんが、大学院への進学を予定しています。ガーナではエイズ対策の現場の経験を得ることができたので、今後は自分の強みとなる専門性を身に付けたいです。

インタビューを終えて1

インターンとして初めてのインタビュー。協力隊の活動を今後の活動にも活かされている後町さんのお話は、私自身の今後の進路を考えるきっかけになりました。

古川彰さん (PC インストラクター)

任地:ワ 配属先省庁:教育省 活動地:イスラミック高校 出身:群馬県

イスラミック高等学校の生徒と古川さん
(写真中央)

Q1 現地の様子について教えてください。

北部のワはサバンナ気候で、首都アクラとは全く異なった環境です。2、3月が暑さのピークなのですが、気温が40℃を超えることもあり、健康には気をつけるようにしています。布団に水かけて寝ても2~3時間で乾いてしまいます(笑)

Q2 高等学校でのPCインストラクターとしての活動をされているとのことですが、現地校はどのような状況ですか。

必修のクラスと選択のクラスを合計で6クラス、週36時間のコマを受け持っていて、非常にハードなスケジュールです。選択クラスの学生は意欲的ですが、必修のクラスでは、14台しかないパソコンを使って90人の生徒を教えるので、限界も感じています。90人のクラスのときは、クラスを3分割して、1グループにパソコンを割り当て、残りのグループには課題を課しています。しかし自分では対処できない問題が発生することもあります。高校の終了年限が3年から4年に変更したため、先生が足りないのに学生が増えるという事態になりました。また現在は政権交代で4年だった年限が3年に戻るなど、現地ではマネジメント面での課題が目立ちます。

ガーナで手に入る部品でパソコンを作る
活動(エレクトロニクス分科会)

Q3 現在、任地での活動以外で力を入れていることはありますか。

ガーナに派遣されている隊員の有志で「エレクトロニクス分科会」の運営を行っています。会の方針として隊員のスキルアップを行い、それを現地に還元することを目的としています。PC インストラクターのみならず、青少年活動や村落開発普及員、服飾などさまざまな職種の隊員がこの分科会に参加しています。今年の12月には、ICT(情報通信技術)分野のガーナ人向けにワークショップを開催する予定で、今後も活動を活発化させていきたいと考えています。

Q4 昨今は日本に元気がないといわれていますが、そんな日本に向けてメッセージをお願いします。

ガーナで活動していると、日本のテクノロジーの高さを実感できます。エレクトロニクス分科会の活動の一環で、ガーナの部品だけでパソコンを作ってみる試みをしました。やはりガーナの部品のみで作るのには苦労しました。日本が持っている技術は、世界から見れば本当に誇れることなので、日本には自信を持って欲しいです。

インタビューを終えて2

任地の気候や配属先の高校でハードな隊員生活をしている古川さん。毎朝の水シャワーでくじけそうになる私とは大違いです。すべての隊員の方が健康に活躍されることを祈っています。

(広報インターン 小島)



20日セクター別勉強会

ボランティア便り

ガーナ旅行記 娘の任地を訪ねて

ホテル休暇村でホテルウーマンをしていた娘(20-2 北村有妃 JV)が、ガーナの観光業の隊員としてスニヤニのポリテクに赴任してから9月で2年が経とうとしています。この度、夫、息子ともに7月11日から16日まで、念願の任国ガーナを訪れる機会がありました。飛行機で東京からドバイまで9時間、ドバイからアクラまで8時間の長旅で、ガーナは本当に遠いなあと実感しました。そして家族4人が久しぶりにアクラで感動の再会を果たしました。私達夫婦は元協力隊員で私はマラウイのOG(S.53 二次隊 看護師)、夫はケニアのOB(S.53 二次隊 測量)だったということもあり、二人にとって国は違っても32年ぶりのアフリカは懐かしく感動の連続でした。また未来の隊員候補の息子のとっても刺激的な旅行となったと思います。ガーナ旅行が実現出来たのも娘が協力隊に参加したおかげだと感謝しています。

アクラに到着後はケープコーストのケープコースト城やカクムナショナルパーク、クマシではマーケットを巡りました。そして13日の夕方には、娘が赴任してから悪戦苦闘しながらも頑張ってきたスニヤニの家に辿り着きました。私がマラウイで住んでいた家を思い出しながら色々想像していましたが、全く違っていました。家の造りはガーナ風というのか、台所、トイレ、シャワー室の片側は壁が無く扉はあるものの外とつながっていて、トカゲ、蜘蛛、その他の虫と同居状態でした。また水しか出ないシャワー室は薄暗く天井、壁は蜘蛛の巣、窓の棧にはトカゲの糞、思わず掃除をしたのですが、「すぐに元に戻るよ。無駄だよ。」と全く気にする様子もなく、そのたくましさに関心させられました。協力隊参加前は虫を怖がって悲鳴を上げていた娘と同一人物とはとても思えませんでした。



北村さんご家族

今回スンヤニでは、いつもお世話になっているという大学の先生の家にご飯に招待されました。はじめて食べる食用バナナ揚げ物のケラウイリ、ヤムイモのアンペシとうガーナ食や美味しいワインをいただきながら久しぶりの英語の会話も何とか……一緒に写真を撮ったり、楽しい時間を過ごしました。娘はアコースィヤというガーナ風のニックネームで呼ばれ可愛がってもらっていて、ガーナ食の食べっぷりもなかなかで、すっかりガーナ人になっているようでした。

スンヤニの2日間はあっという間で、15日の朝、再び7時間かけてアクラに向かいました。途中何カ所か赤土のラフロードも走り東アフリカも同様であった景色に大陸を感じました。アクラの町では、お土産の首飾りや木彫りの飾り物、お面等を値段の交渉をしながら買い物をしました。買い物では娘のチュイ語がおおいに役立ち、かなり安く買うことが出来ました。

夕方は、JICA オフィスの山内所長に時間をとっていただき、挨拶に寄らせていただきました。今回の旅行で娘の周りの優しいガーナ人達にお会いする事が出来てとてもよかったです。あとは、娘が9月に無事任期終了し帰国を待つばかりです。

(ガーナ観光業 北村徳子さん母/北村有妃)